

特別決議（案）

日本政府と東京都は、横田基地における米軍の戦争訓練を許すな！
在日米軍は日本全土を使つての戦争訓練を止めろ！

今、横田基地は米軍の横暴勝手な戦争訓練場とされています。

特殊作戦機C V 2 2 オスプレイは本格的な訓練を開始し、パラシュート降下やホバリングをしながらロープを使った降下や引き上げ、負傷兵の救助訓練なども始めています。夜間の訓練は10時すぎにまでおよぶこともあり、基地周辺住民の生活を脅かしています。

C 1 3 0 J 輸送機は機体の大型化とともに訓練も一段と激しさを増し、編隊飛行や超低空飛行、さらに急旋回飛行を繰り返すなど、これまでとは様変わりした墜落の危険さえ感じさせる激しい訓練を続けています。

去る6月中旬から下旬にかけて行われた異常に激しい軍事演習は、これまでとは全く違った大規模なもので、米軍は地元自治体に全く知らせず強行しました。

この演習は全軍種の特特殊作戦部隊を指揮する米空軍第353特殊作戦群司令部（沖縄嘉手納基地）を中心に、陸軍・海軍・空軍の特特殊作戦部隊などを横田基地に集結し、インド太平洋地域での軍事作戦への即応能力強化を目的とした合同大軍事演習（グリフォン・ジェット）を行ったものでした。

この演習に前後して横田基地では一歩間違えば人命に関わる重大事故になりかねない以下のような事故が連続して発生しました。

6月16日、C V 2 2 オスプレイが訓練終了時の点検でサーチライトドームの遺失を発見。依然として落下場所不明。

7月2日、演習にきていたキャンプ座間所属のU H 6 0 L ヘリからのパラシュート降下失敗で、切り離されたパラシュート本体と部品などが基地外（立川市西砂町内2カ所）へ落下。

7月7日、人員降下訓練中に足ヒレ（フィン）がはずれ基地外（JR牛浜駅西口駐輪場付近）へ落下。足ヒレをつけての降下訓練などがなぜ横田基地でなされたのか不明。

これらは、落下場所によっては、取り返しのつかない大事故になりかねない極めて危険なものです。日本の空、東京の空、三多摩の空がここまで米軍にふみにじられていいのでしょうか。

コロナ危機に当たって、世界で最も感染が広がり深刻な事態のただ中にいる米国と米軍が、こうした事態と全く関係ないかのように、日本の基地を我が物顔で使い、情報さえ公開しないという異常を、これ以上許すことはできません。

私たち三多摩労連は、市民の安全と命を守るために、危険な訓練を繰り返し、事故を発生させ、謝罪さえしない米軍に対して、厳重に抗議し、以下の要求を行うものです。

- 一、人口密集地上空での危険な軍事訓練を行わないこと。
- 一、日本国民に対して事故の発生を謝罪し、これ以上繰り返さないこと。
- 一、都と横田基地周辺自治体からの抗議を真摯に受け止め、要請内容を尊重し、原因究明まで訓練を中止すること。

同時に、こうした米軍の勝手放題を許し、抗議一つしない日本政府と外務省・防衛省に対しても厳しく抗議するものです。

以上決議します。

2020年7月25日 三多摩地区労働組合連合協議会第30回定期大会